

「『せんば』って不思議な機械だよ！」
 ～初めての体験、足踏み式脱穀機～

中山みどりの森保育園

中山みどりの森保育園では、開園当初から豊かな自然を活かした保育に取り組んでいます。その中でも、年長児の『米作り』は、旧逢坂保育所の時代からずっと続けている取り組みの一つです。

今年度も、保育園の行事のお手伝いをしてくださる『もりっこ隊』の方々に、中山小学校の五年生と一緒に、手作業での田植え・稲刈りをし、稲刈り後には脱穀作業も体験しました。

保育園の南側フェンスに、はぜ掛けをして乾燥させた稲を、『せんば』という昔ながらの足踏み式脱穀機を使って、『もみ』と『わら』に分けます。稲の束を持ちながら足踏み式脱穀機を扱うという初めての体験に、初めは少し緊張した様子でしたが、使い方がわかると、「おもしろい」「もっとやってみたい」「もみがとれて、わらになったよ」「むかしのひとはすごいなあ」と、いろいろな発見や気づきがあったようです。そして、この米作りで収穫した新米と、保育園で育てたさつまいもを

使って、いもご飯を作って食べました。この米作り体験を通して、自然の恵み、働くことの大切さ、食や命の大切さを知り、大山町を愛する子どもへと成長してほしいと願っています。



▶昔ながらの足踏み式脱穀機(せんば)を使って初めての脱穀体験をする園児たち

来年度スタートへキックオフ！
 ～コミュニティ・スクール研修会～

11月26日、各小中学校の学校運営協議会設置準備委員を対象に、標記研修会を行いました。

西部教育局の下前博司係長からは、「なぜ学校と地域の連携・協働が求められているのか」、「コミュニティ・スクールのしくみ」について、伯耆町立岸本小学校の前校長小澤敦彦さんからは、「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）への思い」、「岸本小学校の具体的な取組やその成果と課題」についてお話いただきました。それぞれの立場からの質問や意見など、活発な意見交換が行われ、学習を深めました。

講演中のキーワードとともに、参加者の感想(要旨)をお伝えします。



▲学校と地域の連携・協働が大切

○学校・家庭・地域の三者が、学校の実態、地域の実態を共有し、どんな子どもに育て、どんな力をつけるのか、対等の立場で話し合うことが大切であるとわかりました。

○子どもは我々大人が未来を託すファンナー、未来の常識は子どもたちが作るものだと感じました。これからの未来のために、ともに汗を流したいと思います。

令和4年度からのスタートに向け、町民の皆さんのご協力をお願いします。

地域の方に支えられています
 「子ども見守り隊」隊員募集中

「子ども見守り隊」とは、小中学生の安全のため、登下校時に通学路周辺で見守り活動をするボランティア隊員です。

- ・報酬はありませんが、ロゴ入りジャンパー・ベスト・帽子を支給します。登録は随時受けつけています。
- ◇活動内容
 - ・小中学生の横断を見守る
 - ・通学時間帯に散歩や農作業をしながら見守る

園 幼児・学校教育課 学校教育室

☎0859-5415211